

## 2-1 施工手順

2-2 設置方法 (82頁)

2-3 接続方法 (83頁)

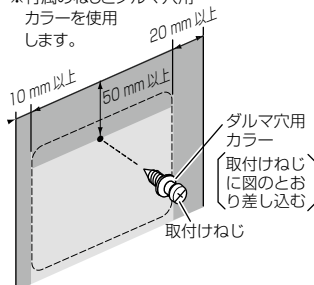
1. 電圧入力 ..... 83頁
2. パルス入力信号線の接続 ..... 83頁
3. 警報出力(接点出力)信号線の接続... 84頁
4. ネットワーク配線の接続 ..... 84頁

## 2-2 設置方法

### 壁面への取り付け

① ダルマ穴への取付けねじを壁面に取り付ける。

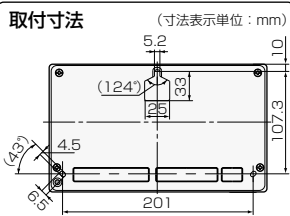
※付属のねじとダルマ穴用カラーを使用します。



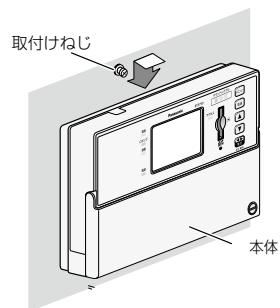
#### ご注意

本体の周囲は左図のスペースをとってください。

#### 取付寸法



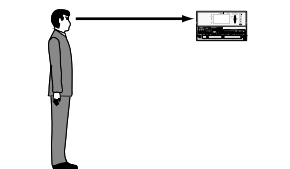
② 本体を取付けねじに引っ掛ける。



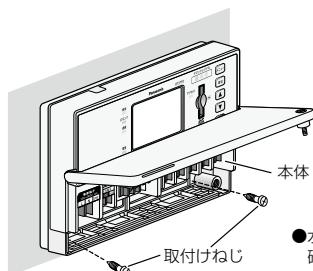
#### 設置時の高さ

液晶モニターが見やすい位置に設置することをおすすめします。

- 液晶モニターの特性上、下から見上げるような位置に設置すると、視認性が低下します。



③ 本体下部2カ所をねじで固定する。



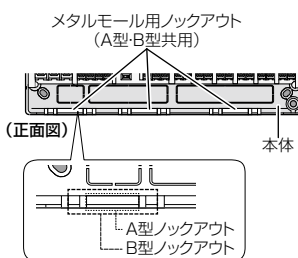
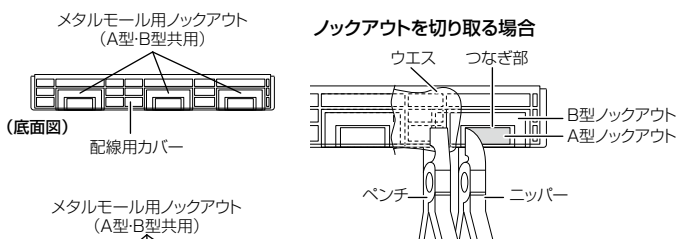
- 水平位置を決め、付属のねじで確実に固定してください。

## 2-2 設置方法

### 通線方法

#### ■下方配線の場合

配線用カバーを取り外し、配線孔を切り抜いて通線してください。

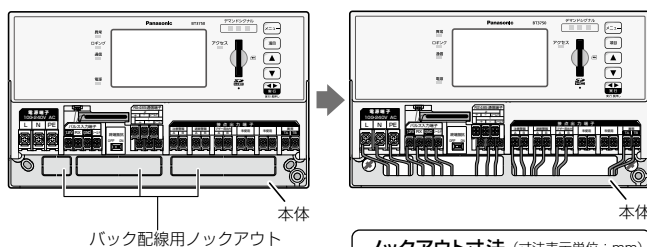


#### ご注意

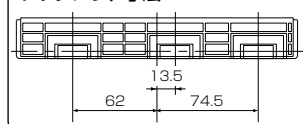
- ・本体が変形・破損しないように、ウエスなどで保護をしながらペンチではさんでください。
- ・つなぎ部近くをニッパーなどで左右片側ずつ切り取ってください。(図は左側のつなぎ部を切り取る場合)

#### ■バック配線の場合

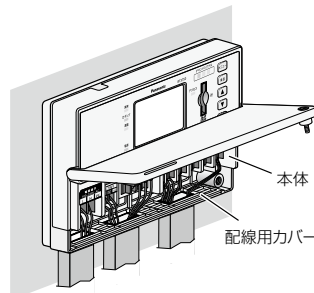
本体下部のノックアウトを打ち抜いて通線してください。



#### ノックアウト寸法 (寸法表示単位: mm)



#### ■下方配線の場合の配線の処理

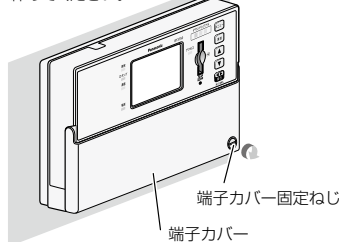


#### ご注意

- 露出配線は、結線外れや断線のおそれがあります。メタルモールなどで配線カバーをご使用ください。

#### ■配線が終わったら

端子カバーを閉め、端子カバー固定ねじを締めてください。

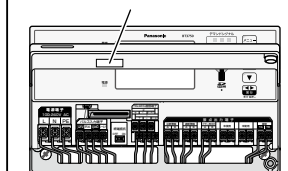


#### ご注意

- 耐熱シール剤などで配線孔と電線のすきまを埋めてください。虫や小動物が侵入し火災の原因になります。

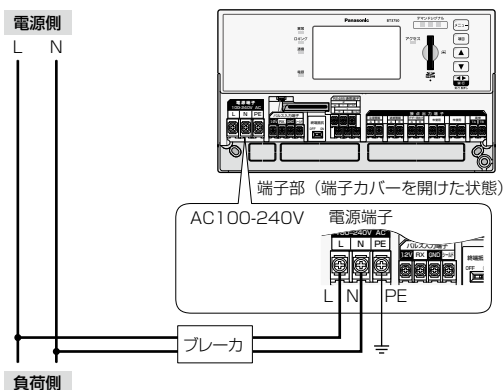
付属の電池使用開始日記入ラベルに使用開始日を記入して、端子カバーの裏面に貼り付けてください。

電池使用開始日記入ラベル



## 2-3 接続方法

### 電圧入力



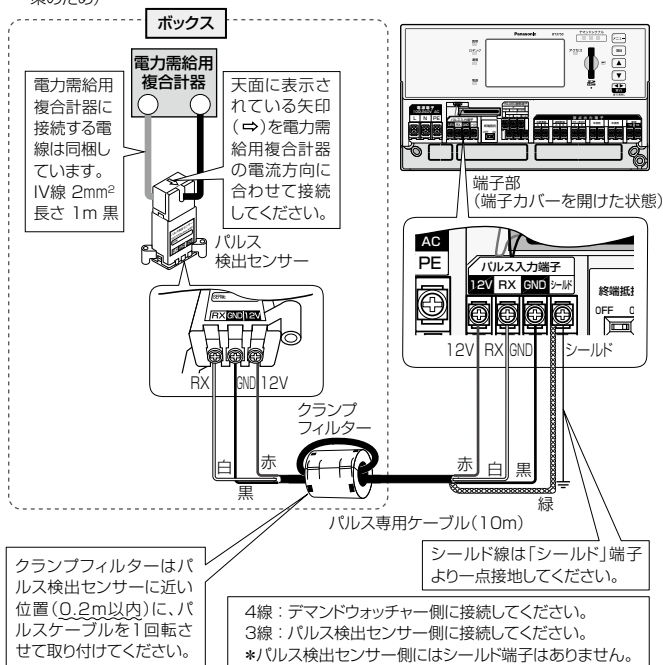
- ・ 本器の保護やメンテナンス性確保のためブレーカ(3~15A)などを設置してください。
- ・ 本器の電源として、UPS電源や安定化電源など(商用電源以外の電源)をご使用の場合は、応用設定メニューの「時計の自動補正」を無効(OFF)にしてください。(91頁参照)

### パルス入力信号線の接続

#### ご注意

1. パルス検出センサーの電力需給用複合計器への取り付けには、電力会社の立会いが必要です。(管轄する電力会社へご依頼ください)
2. パルス検出センサーは磁気コアを搭載しているため、取り扱いには十分注意してください。落下等の衝撃を加えると破損して、パルス検出ができなくなるおそれがあります。

注) パルス入力信号線は強電部(電源系配線)とできるだけ離して配線してください。(ノイズ対策のため)



- クランプフィルターはパルス検出センサーに近い位置(0.2m以内)に、パルスケーブルを1回転させて取り付けてください。
- シールド線は「シールド」端子より一点接地してください。
- 4線：デマンドウォッチャー側に接続してください。
- 3線：パルス検出センサー側に接続してください。
- \*パルス検出センサー側にはシールド端子はありません。

#### パルス入力信号線の配線長を10m~100m以内にした場合

- 推奨電線<MVV-S(3線+シールド線)>を別途準備いただき敷設してください。
- ・ 付属のパルス専用ケーブルは使用できません。
  - ・ 総配線長は100mまでです。
  - ・ “導体断面積0.5mm<sup>2</sup>”なおかつ“仕上がり外径φ6.5以内”の電線をご使用ください。
- 注) 上記より大きなサイズの電線を使用すると、クランプフィルターが破壊するおそれがあります。

#### 他社製パルス検出器を使用してパルス入力信号線の配線長を100m以上(最長500m)にしたい場合

他社製のパルス検出器(別売)を別途準備していただく必要があります。

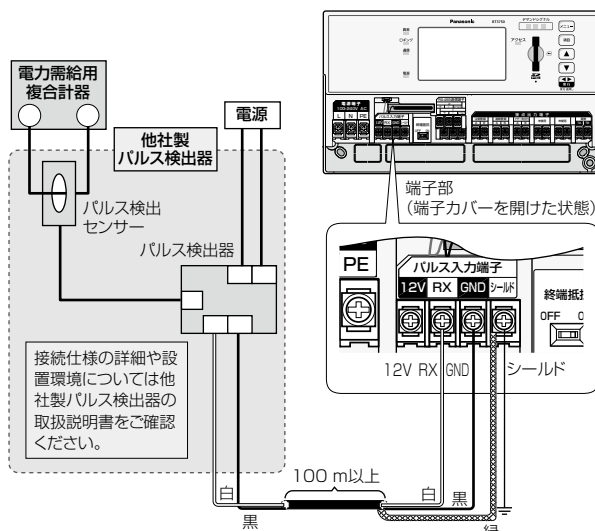
当社エネルギーモニタWebサイトでご確認ください。

デマンドウォッチャー **検索**

#### ご注意

本器と対象の他社製パルス検出器の接続において基本動作確認は実施しておりますが、さまざまな環境下での動作をすべて保障するものではありません。

他社製パルス検出器の取扱説明に従って、設置してください。



- ・ 付属のパルス検出センサーおよびパルス専用ケーブル(10 m)、クランプフィルターは使用できません。
- ・ 推奨電線<CVVS(2線+シールド線)>を別途準備いただき敷設してください。
- ・ 1.25mm<sup>2</sup>の電線をご使用ください。
- ・ シールド線は本器の「シールド」端子より一点接地してください。
- ・ 他社製パルス検出器には別途電源供給が必要となります。
- ・ 本器の「12V」端子には接続しないでください。

#### ■動作確認済みパルス検出器一覧(下記品番を推奨します)

2021年4月現在

メーカー	品番	最大配線長
富士電機	PD3	500m
大崎電気	OCK-6/OCK-6A	300m
大崎電気	*OCK-7/OCK-7A	500m

注) 各電力管内において、使用される電力計によりパルス検出器の選定が必要となります。パルス検出器の選定においては、上記メーカーへお問い合わせください。

\*生産終了品

#### ■デマンドウォッチャーと他社製パルス検出器の接続

本器	RX	GND	端子サイズ
PD3	C3A	C3B	M3
OCK-6/6A	C0	C1	M4
OCK-7/7A	C2A	C2B	M4
	C0	C1	

\*OCK-7/7Aと接続する場合には、「C2A/C2B」と「C0/C1」のどちらでも使用することができます。

注) 本器と対象の他社製パルス検出器の接続において、基本動作確認は実施しておりますが、様々な環境下での動作をすべて保証するものではありません。他社製パルス検出器の取扱説明に従って、設置してください。

概要編

モーター  
多回路エネルギー

商品編

エネルギー

商品編

デマンド  
ウォッチャー

施工編

LAN  
対応

商品編

電力メーター

商品編

システム編

付録

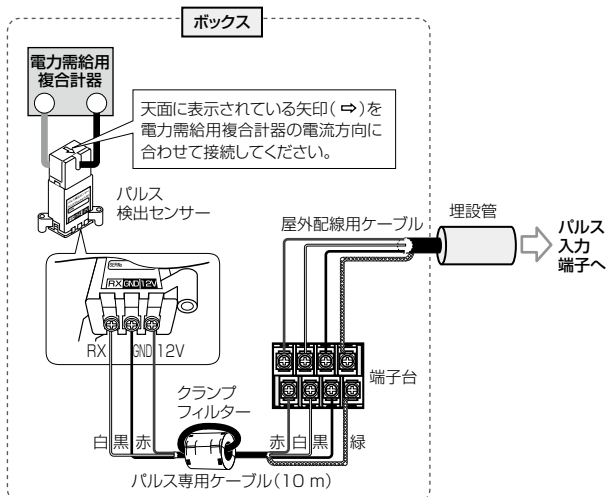
2-3 接続方法

パルス入力信号線を屋外配線したい場合

屋外配線用ケーブルと端子台を別途準備していただき、埋設配線に対応してください

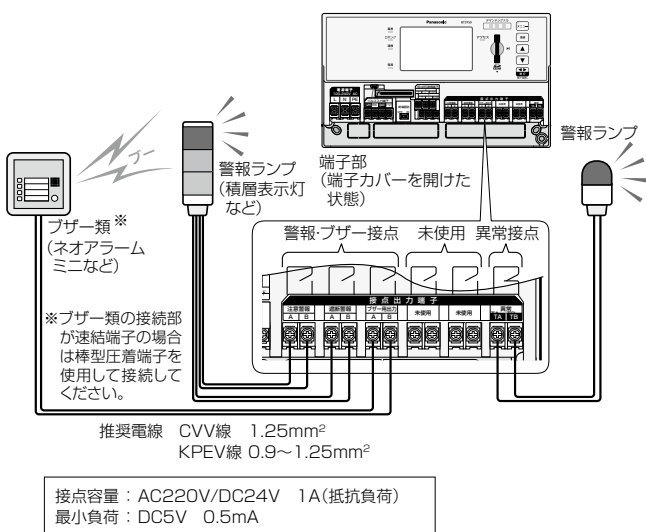
ご注意

架空配線は行わないでください。  
ノイズ・サージの影響により、本器が誤動作する場合があります。



- ・屋外配線用ケーブルとして、推奨電線<CVV-S(3線+シールド線)>を別途準備いただき敷設してください。
- ・1.25mm<sup>2</sup>以上の電線をご使用ください。
- ・ボックス内で端子台を使用し、付属のパルス専用ケーブルと接続してください。
- ・付属のクランプフィルターを取り付けてください。
- ・シールド線は本器の「シールド」端子より一点接地してください。

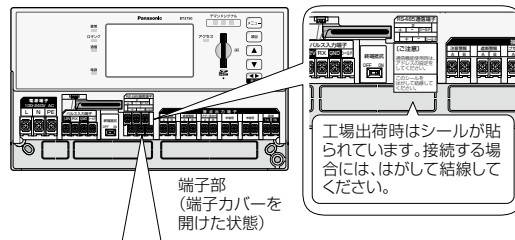
警報出力(接点出力)信号線の接続



- ・接点定格内で使用してください。
- ・接点容量以上の負荷を接続する場合には電磁開閉器等を使用してください。
- ・消費電流が接点容量(1A)内でも、キセノン光源や中型以上の電球、ホーン型プザーなど突入電流が5A以上の機器は直接制御できません。
- ・突入電流の大きい機器を制御する場合は、別途、電磁開閉器等を使用してください。

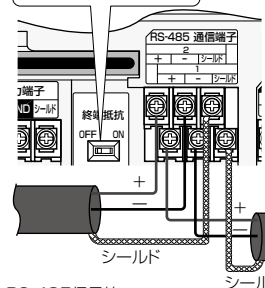
ネットワーク配線の接続

ネットワークシステムとして使用するには、RS-485信号線が必要です。  
RS-485通信端子についているシールをはがして、下図のように接続してください。



●本器を通信システムの終端以外に設置する場合

終端抵抗切替スイッチを「OFF」にします。  
(工場出荷時：OFF)



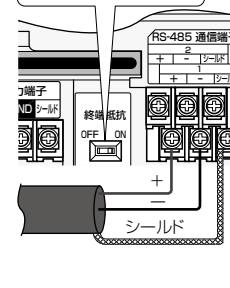
RS-485信号線

推奨仕様

- ・ケーブル種類：OPEV-S【CPEV線(シールド付き)】
- ・ケーブル径：線径φ0.9~1.2(単線)
- ・最大配線長：800 m

●本器を通信システムの終端に設置する場合

終端抵抗切替スイッチを「ON」にします。  
(工場出荷時：OFF)



ご注意

1. ネットワーク配線(RS-485信号線)は強電部(電源系配線)とできるだけ離して配線してください。(ノイズ対策のため)
  2. RS-485のシールド線は本器の「シールド」端子または通信システム上のその他一箇所を一点設置してください。(一点接地しないとノイズの影響により通信エラーが発生する場合があります)
  3. RS-485信号線は、わたり配線で配線してください。
  4. 落雷が発生すると、発生した過電流や過電圧が電源線やRS-485信号線などを伝い、本製品の故障の原因になることがあります。落雷の備えとして他社製避雷器(SPD)※の設置を推奨します。
- ※別途ご準備ください。

■通信設定について

- ・通信を行うには信号線の接続に加え、通信の設定が必要です。通信設定には通信プロトコル設定・通信速度設定・ネットワークアドレス設定があり、そのすべてを設定する必要があります。設定方法は92頁をご参照ください。
- ・通信方式と通信速度の設定は、上位システムの仕様に合わせてください。ネットワークアドレスは、上位システムが対応している範囲内でシステムに応じた設定をしてください。